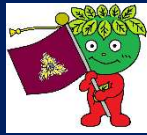


校長室通信



阿蘇西小学校 校長だより No. 19

令和7年3月5日

文責 田上邦宏

熊本県学力・学習状況調査の児童質問紙調査の結果から

12月に行われた熊本県学力・学習状況調査の結果について、この後の学級懇談会の中で、その結果を示した個人票が配付されます。学力調査から見えた課題等については、現在授業等の中で取り組んでいるところです。上記調査には、いわゆるテスト（国語、算数）だけではなく、生活習慣や学習習慣、学校生活等について尋ねる質問紙調査（i-check【アイチェック】）というものがあります。今回は、その調査結果の一部についてお知らせしたいと思います（結果は、調査実施の3～6年生のみを表示）。

右のグラフは「学校の授業以外に、平日は、1日にどれくらい勉強をしますか。」を学年ごとに表した結果です。アンケートを実施した際の子供たちの質問の受け止め方などによって、実際の状況とは異なる場合があるかもしれませんが、「全くしない」と回答した子供がいることが分かります。県教育委員会が示した、義務教育段階における学力向上に関する計画「熊本の学び推進プラン」

（2020年4月～）の4つの基本方針の1つに「家庭と連携を図りながら、子供たちの学習習慣形成を促す取組の推進」があります。学校での学習はもちろんですが、「**子供自身が、自分で計画を立て、決まった時刻に、もしくは一定の時間、家庭学習に取り組む**」

ことが重要とされています。家庭学習については、同調査の結果等から、熊本県と全国との結果に差が見られ、学習習慣が確立できていないことが分かっています。発達段階に応じて、家庭学習の意義や系統を、学校と家庭が共有し連携・協働しながら子供たちに関わっていく必要があると、改めて感じたところです。

いざ頑張ろう！と思っても、家庭学習に取り組みたくても何をすればいいかわからなかったり、やる気がわかなくなったりする子供がいるかもしれません。右のグラフは「学校の授業の予習や復習はしていますか。」を学年ごとに表した結果です。これも、「全くしていない」と回答した子供がいることが分かります。していないことはないと思いますが、子供自身に、その自覚がないのかもしれません。学校としても、引き続き、授業と家庭学習をつなげたり、子供のやる気を引き出したりするなど、子供たちに具体的に分かりやすく示すとともに、家庭学習の取組について、保護者の皆さんと共通理解を図り、共通実践をしていくことが大切になってくると思います。

ここで疑問に思うのが「家庭学習をしていない子供は、何をしているのだろう。」という点です。習い事を頑張っている、家の手伝いをしているのであればいいのですが、右のグラフをご覧ください。「平日は、1日にどれくらいテレビや動画を見たり、インターネットを使ったり、ゲームをしたりしますか。」を表した結果です。結果からは、**平日にテレビや動画、インターネット、ゲームを2、3時間以上している子供が、4年生以上は半数以上いる**ことが分かります。

この調査と学力調査との相関（各選択肢を選んだ子供の学力調査での正答率）を調べると、**時間が増えるほど正答率が下がることが分かっています**。昨年度もお伝えしました

が、「SNS等の使い方について家でルールがありますか。」の質問に、「ルールは特にない」と回答した子供が3～4割近くいることが分かっています。「使用する時間」はもちろん、「使用する時間帯」「使用する条件」等、**各ご家庭の実情に合わせ、子供さんとぜひ話し合ってください**と思っています。

急激に変化する時代の中、インターネット等、ICTを上手に活用する力を身に付けることが求められています。使わない・使わせないではありません。**依存することなく、上手に活用してほしい**と思います。今回の調査結果から見てきた一部ですが、お伝えしました。分かりづらい内容でしたが、子供さんの健やかな成長のため、学校と家庭が連携していくことができればと考えています。ご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。

